

伊勢市教育委員会

「子どもたちとつくる『やさしいまち伊勢市』支援事業」

平成29年度

「やさしいまち伊勢市発見大賞」 入賞作品集



「やさしいまち伊勢市」を創ろう

子どもたちが持っているやさしさを、この伊勢のまちに活かすことはできないだろうか？ そんな思いから「子どもたちとつくる『やさしいまち伊勢市』支援事業」が始まりました。伊勢市の街に住む市民一人ひとりにとって「やさしいまち」づくりをめざすという趣旨で、この事業が展開されています。

「やさしいまち伊勢市発見大賞」の募集は、今年度で八回目になります。普段の生活の中で周りの人から受けるやさしさや学校での様々な経験を通して育まれる思いやりは、子どもたちの感受性を育みます。その感性で、自ら人にやさしくするには？思いやりのあるまちとは？と考える機会を作ることが、発見大賞の大きな目的の一つです。

今回の応募作品全体を通して、学校で取り組まれている様々な活動や地域の方々の協力によって、子どもたちの感性、やさしさ、人を思いやる心が育まれていると感じました。日々の生活の中や、学校でのいろいろな活動の中で人と出会い、触れ合い、子どもたちが感じて感じて学ぶことのなんと豊かなことでしょう。

体験・発見作文の部、俳句・短歌・川柳の部ともに、伊勢市にもた

された災害から改めて考えたことや、家族や地域の人々への感謝の思いやさりげない優しさがくれる温かさなどが表現されていました。

ユニバーサルデザインの部には、いろいろなアイデアが集まりました。街の不便なところや困ったことを見つけるだけではなく、ユニバーサルデザインの観点で当事者の思いを大切にしていこうとしていた改善できる点はないかと考えたりする、子どもたちの前向きな姿勢に感心しました。

今年度は二〇〇八点の応募作品があり、応募された全作品がやさしさに満ち溢れていました。すべてを紹介できないのが残念です。市長賞の作文には、「人と人とのつながりは、助け合うことで深くなっていくことを実感しました。今でも、感謝の気持ちは忘れていません。」とありました。これからも「やさしいまち伊勢市」を創るために子どもたちの力を大いに活かしていきたいと思っています。

平成三十年 三月 伊勢市教育委員会教育長

北村 陽

作文の部

市長賞

助け合ひ会

厚生中学校 二年 佐波 さくら

私は自然災害が高齢者の方々に大きな被害を与えることを改めて知ったことがあります。それは昨年(2019年)の十月に台風の影響により、私の近所に住んでいる高齢者の方々の家が浸水したことでした。私の家は母の車が浸かりましたが、幸い家の中は床下浸水でした。ですが、近所は高齢者の方が多く住んでおり古い家が多いので、床上浸水で被害を受けた方がたくさんいました。そのうちの一軒が祖母の家でした。被害を受けた次の日は暴風警報が解除され、学校に風から行かなければなりませんでしたが、私は祖母の家の片付けのために学校を休みました。朝から祖母の家へ行き、片付けをして、昼食を自分の家で食べていると、厚生中学校の3年生の皆が私の家の周りのボラントニアに来てくれました。友達(友人)は私の家の駐車場のゴミ掃除や泥流しを手伝ってくれたり、祖母の家の近所の方々の家まで片付けを手伝っていました。父や母、祖母は、「手伝ってくれたおかげで、いつも作業がはかどった。」

いつも皆に感謝していました。私も皆の顔を見ただけで気持ちが楽になり、ほっとしました。この気持ちは私だけじゃなく、近所の皆さんが思っている気持ちだと思います。

この体験から、人と人とのつながりは、助け合ひ会でも深くなくていいことを実感しました。今でも感謝の気持ちは忘れられません。



十月の台風(2019年)により被害を受けた家族や地域の姿(様子)を自然として佐波さん。自分の家はもちろんなのに、まわりのお年寄りの家についても心配を重ねていました。そんなとき、同じ学校の友達がボラントニアに来てくれたことで、気持ちが楽になったと綴っています。これからも、「人と人とのつながりは、助け合ひ会でも深くなくていい」をみんなが実感できるように「せわいすまが」をのびたごちやね。

教育長賞

祖母とバス

厚生中学校 三年 亀井 口寛子

最近、二ユースで高齢者の交通事故の二ユースをよく見ます。特に多いのが高齢者が車を運転して事故を起こすというケースです。

私の祖母も毎日車を運転していました。ですが、私も家族も、祖母が事故を起こさなければ不安だったので、一度車に乗るのを辞めました。車に乗ることを辞めた祖母は、足腰が悪くなり、元気もなくなりました。それに車がないと病院にも行けません。それで、祖母はまだ車を運転するようにしました。

私の家の近くには、すぐ急な坂を下らないとスーパーも病院もありません。足腰の弱い祖母は車いすから外出できなくなっていました。そのような時、バスに乗るといって手段を隣人の方に教えて頂きました。その方は、車を持っていないため、いつもバスでスーパーまで通っています。それで、七十五歳以上の高齢者は割引もついているのを知り、今年七十五歳になった祖母も利用してみようと思いました。バスを利用するようになった祖母は、隣人の方と一緒に元気に買い物に行っています。伊勢市のこの取り組みが良かったです。伊勢市は

高齢者に優しい街だなと思いました。



おはあさんが車の運転を辞めたところ元気がなくなってしまったことを心配していた亀井さん。隣人のアドバイスを受け、自分で行動できる方法ができたことで、活発になったおはあさんとの姿に安心しています。みんなが住みやすいまちづくりで、いざからもう考えようという気持ちです。

優秀賞

やさしい伊勢の人々

倉田中学校 一年 久留 清花

いつもの様に自転車で下校していた時、いつもの様にひもでカバンをひいたつもりが、今日にかぎってゆるんでいたのか、ひもが途中ではずれてしまった。最初はものじやうにかなわないそのまゝ走っていたので、タイヤがひもがからまらなくなって自転車が急に止まりました。自転車を止めて、私が困りはじめたまま、いつも見守っているボランティアのおばあさんたちがかけつけてくれました。

それから三十分くらいかけて自転車を直すのを手伝ってくれました。その中には自転車のプロの人も入るといって、工具を直してくれました。直してもらっただけでめろがたいたので、新しいひもをひいてくれました。やはり、じいちゃんやママがかわいくなるといって教えるくれました。JCSの方に感謝したいからママがかわいくなるといってママもくれました。じいちゃんお世話になったので、ボランティアさんたちは私の顔を思い、「大丈夫。」

と言ってくれました。私はうれしかったかもしれませんが。こんなやさしい人たちがいる伊勢市で生活できてうれしいです。私もボランティアさんのまねをして困っている人を助けたいです。将来は、ボランティアさんたちのようないいおばあさんになりたいです。



学校からの帰り道、自転車の紐が絡まって困っていた久留さん。どうしたらいいか途方に迷っていたじいちゃんを、地域のボランティアのみなさんが助けってくれました。ボランティアの方の知恵を教わってもらって、紐が絡まぬじいちゃんになったじいちゃん。経験となったじいちゃん。

「じいちゃんや優しい人たちがいる伊勢市」を久留さんが引き継いでいくことを目指そうよ。

やさしくあひねる町、伊勢

厚生中学校 三年 九鬼 すみれ

昨年十月下旬、台風二十一号により伊勢市各地は大きな被害を受けました。幸い厚生中学校は被害が少なく、近隣の住宅へお手伝いに行きました。一人暮らしの高齢者が多い地区のため、数人のグループに分かれての作業でした。高齢の方には難しい力仕事もあり、大変喜んでいただきました。

「助かったわ。厚中の子らはほんとにやさしいなあ。」

と声をかけてもらいました。私達も役に立てたことがうれしく、さすがに気持ちになりました。

これからこのような助けが必要な時は積極的に参加したいし、日常でも自然にお手伝い出来るように心がけたいと思います。

また伊勢は国際的な観光地なので様々な方々が訪れます。物や施設などのユニバーサルデザインやバリアフリーが整備されるだけではなく、それらの心やさしくお考えのあつめる助け合いが必要だと思っております。

やさしくあひねる伊勢でありつづけられるよう私達が率先して行動してきたいと思います。

ボランティアの経験から、役立てる喜びを感じた九鬼さん。やさしくあひねる伊勢であり続けられるよう、さまざまなお事に率先して行動してまいります。

入賞

うらのはじでの発見

早修小学校

三年

岡部 瑛

弟は障がい者だった

明野小学校

五年

伊藤 亜柚葉

ゆずり合いの心でほっこの気分

明野小学校

五年

安西 結希乃

困っている人がいたら

厚生中学校

三年

西中 のどか

スーパー高齢者

厚生中学校

三年

近藤 世竜

お年寄りの笑顔

城田中学校

一年

井戸本 唯

*俳句・川柳・短歌の部

市長賞

席しんせ

優さを田つて

言ってみる

相手を思つ

優しい心



豊浜中学校 二年 奥野 秀真

【作品についての説明】「席しんせ」は、実際に一人で電車に乗って行く時高

齢者の方に席をゆずったことがあり、その時の相手のありがたさや優しい

心や言葉が伝わって、それが高齢者や障がいのある人も住みやす

くまなっていくことも近頃はよく思うようになりました。「やさしい心」

は、この優しさや言葉が行動が、じつからの伊勢市をめぐってまわり

ていくことが出来るように。

教育長賞

バリアフリー

ほんのじんも

だんさなし



明野小学校 三年 川口 慶大

【作品についての説明】「バリアフリー」は、しょうがいのある

人やお年寄りの方の生活にまたげとなるものを、まちやたてももの

なかからなくしてあげます。ほんの目の不自由な人が道路で困って

いるのをこころをわだかまけてあげたいです。そこはほんのバ

リアフリーのこと、心のたすきをなくしてあげたいです。「やさしい

心」

まちのなかでは、バリアフリーの建物や乗り物が増えるのはいい

ですが、ハード面だけでなく、心のバリアフリーが大切であること

を伝えたいです。

優秀賞

はあまの手 なまごまのしんめい せあひの手

四郷小学校 一年 野口 大輝

【作品についての説明】

はあまはあまのやまごまのしんめいもかばんも上手に作ります。まはしんめいもかばんも上手に作ります。

しわしわの手 まま見とおもひ あひがひ

明野小学校 三年 中川 くらら

【作品についての説明】

大好きなおじいちゃん・おばあちゃんのことを思いながら書きました。

伊勢の手 しんめい祖父の やまごま手

厚井中学校 一年 海老原 百壽子

【作品についての説明】

はあまの手はあまのやまごまの手もかばんも上手に作ります。まはしんめいもかばんも上手に作ります。

入賞

重いでしょ わたし持ちます そのこま

明野小学校 三年 辻 優莉奈

毎朝の パトロールでは ありがとう 私も元気に 頑張る一日

厚生中学校 二年 森北 杏

優しいは 町の大事な 宝物

厚生中学校 二年 箕成 奏



心が動いた場面を切り取った言葉だ。なまごまの手はあまの手が素直にこころを伝えている。あまの手はあまの手が素直にこころを伝えている。あまの手はあまの手が素直にこころを伝えている。

ユニバーサルデザインの部

市長賞

倉田山中学校 1年 水谷 桃奈

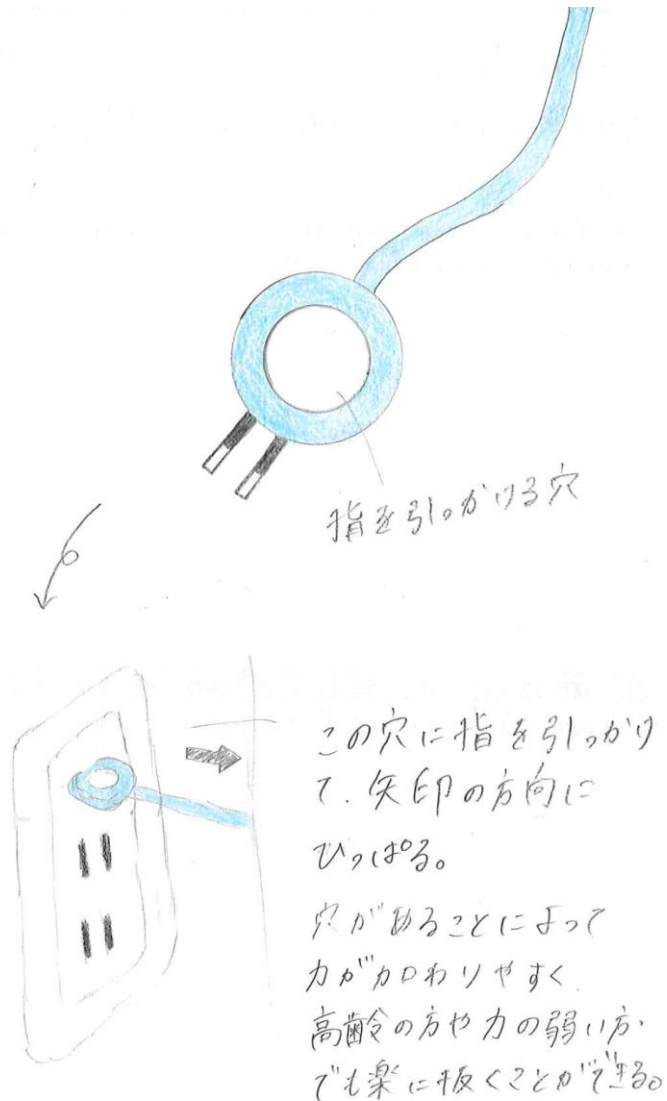
《テーマ》 「少ない力で簡単に」

●気づいたこと

コンセントにささっているプラグを抜くのが固くて抜きづらく、不便だと思った。

●こうなったらいいと考えたこと

少ない力で簡単に引き抜けるように、指を引っかける穴があれば良いと思った。



教育長賞

倉田山中学校 1年 浜尾 桂奈

《テーマ》 「やさしい街、やさしい環境について」

●気づいたこと

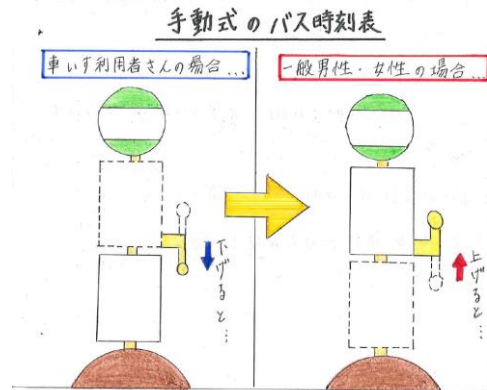
高い位置にバスの時刻表が設置してある。

→子どもや車椅子の人が見上げることになる。

●こうなったらいいと考えたこと

低い位置に設定できたり、高い位置に設定できたりすると見やすくなる。

→いろんな世代の人、子ども、障がい者、高齢者、サラリーマン、大学生が使いやすくなる。



- 車椅子の人が見たい時は、レバーを下に下げると、時刻表が車椅子の人の目の前になる。
- 車椅子の人だけでなく腰の曲がりおばあさん、おじいさんにも使ってもらいたい。
- 男性や女性、大学生が見たい時は、レバーを上上げると元に戻る。
- 時刻表が男性の目の前になる。

誰でも見やすくなる

優秀賞

進修小学校 5年 中谷 紅葉

《テーマ》 「歩行者用信号」

●気づいたこと

つきよみ食堂の前にある23号線をはさむ歩行者用信号の時間が短いので、お年寄りや障がいのある人たちがわたるのは大変だし危ないと思う。

●こうなったらいいと考えたこと

歩行者用信号が取り付けられている棒の上にセンサーを取り付けて、そのセンサーで歩道を歩く人のスピードを感知して、そのスピードにあった青信号の時間にすればお年寄りや障がい者も安心してわたれるし、23号線で待っている自動車もセンサーで歩行者用信号の青の時間が変わるので毎回、毎回、長い間待たなくていいから。



入賞

「親子にやさしく」

小俣中学校 1年 出口 栞

※公共の乗り物に乗っているとき、赤ちゃんが泣いて困っているお母さんがいたので、授乳やオムツ替えができるような場所を作ったらいいのでは、と考えたそうです。

「目に障がいがある人のために」

倉田山中学校 1年 奥野 空希

※バス停に点字がついていないということに気づき、点字よりも音声ボタンがあればもっと分かりやすくだらうなと思ったそうです。

授業で学んだことをもとに、自分の身の回りを「やさしいまち」の視点で見つめた作品や自分が普段から「こうだったらいいな。」とか「こうすると便利なのでは？」と考えたことをアイデアに生かした作品などがありました。

***市長賞の水谷さんのアイデア**

コンセント自体に穴があることで、抜き差しがしやすい、と考えた水谷さん。誰もが使いやすいとの思いを大切にしようとするユニバーサルデザインの提案です。

***教育長賞の浜尾さんのアイデア**

バスの時刻表の位置が変わることで、誰もが見やすくなるのではないかと考えた浜尾さん。もっと利用できるようにと、すばらしいアイデアを提案してくれました。

***優秀賞の中谷さんのアイデア**

自分の地域で身近にある不便さに気づいた中谷さん。不便さをそのままにせず、前向きに考えていこうとする姿勢がすばらしいです。

学校賞

明野小学校

(学校全体で発見大賞に取り組んでいただき、優秀な成績をおさめられたため)



平成29年度
「やさしいまち伊勢市発見大賞」入賞作品集

編集 伊勢市教育委員会事務局学校教育課
発行 平成30年3月